

樽前山

2007年～2011年の間の樽前山北東部における比高変化は、2001年から2007年の期間と同様に、全体として山下がりの傾向を示し、2001年以降、樽前山では山体の沈降・収縮が継続している。

○1997-2011年の期間における 北東山麓の比高変化

2011年9月に北東登山道に沿った水準路線(図1)の測量を実施した。

1997-2001年の期間では、山頂ドームから約4km以内の地域での若干の山上がりやTR1040～TR1090付近(図2においてドームからの距離が8km付近)を中心とした僅かな隆起が特徴的である。

2001年～2007年の期間では、全体的に沈降を示し、BM10501～BM10506(山頂ドームからおおよそ7500m以内の地域)にかけて、明瞭な山下がりを示した。

2007年～2011年の期間も、前期間と類似した沈降傾向が認められ、2001年～2011年の全期間を通して、山体の沈降・収縮が継続していると言える。

なお、2001年～2011年の間には、2003年9月の十勝沖地震、2011年3月の東北地方太平洋沖地震が発生しているが、水準路線が局地的であるためか、明瞭な影響は認めがたい。

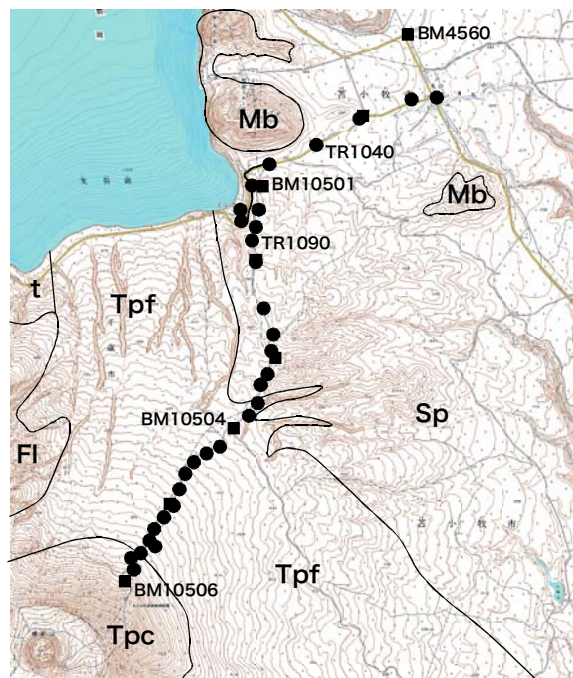


図1. 北東登山道に沿う水準路線と地質分布. 黒丸は北大、黒四角が国土地理院が設けた水準点. 地質分布は20万分の1地質図「札幌」(石田ほか、1980)による. Tpc: 樽前山山体軽石丘、Tpf: 樽前山軽石流堆積物、Fl: 風不死岳溶岩、Sp: 支笏噴出物、Mb: 紋別岳及び多峰溶岩

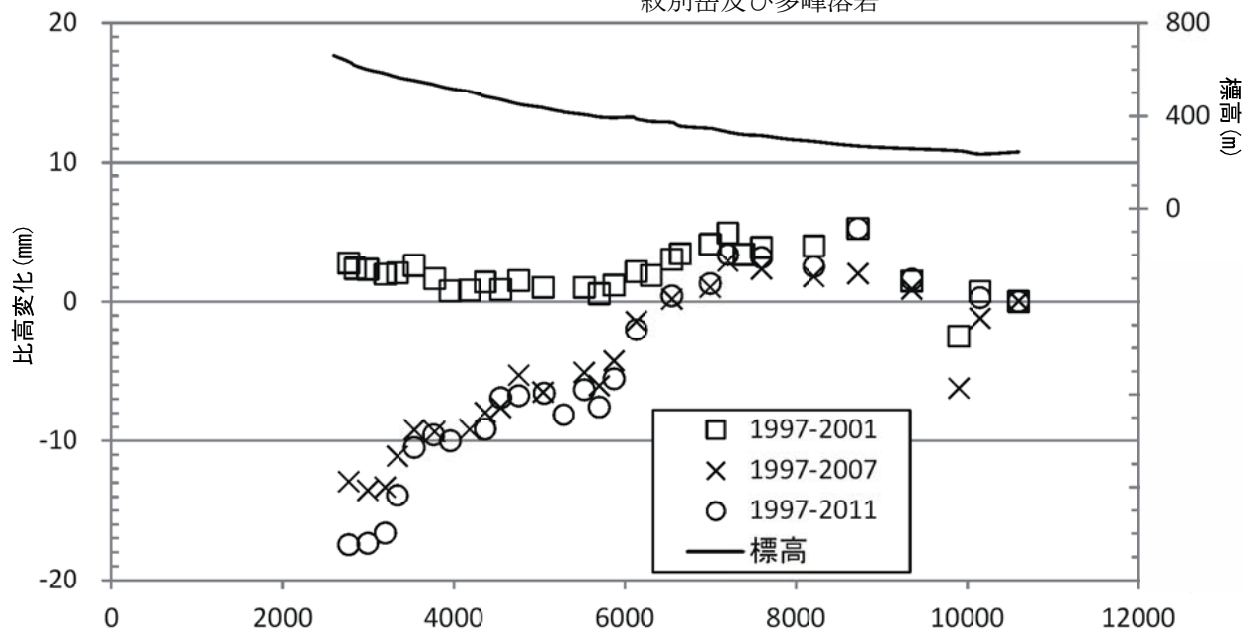


図2. 北東登山道に沿う水準点の1997年を基準とした各期間の比高変化. 仮不動点はBM4650. 1997年7月: 北大・名大、2001年: 国土地理院、2007年9月: 北大・札幌管区気象台・国土地理院、2011年9月: 北大(森(濟)、森(貴)、大島、前川、田中、増田)